

キッズみんなの日記

1月号

新年明けましておめでとございます。本年も、「キッズみんなの日記」を愛読くださいますようお願い申し上げます。

さて、先月初めて取り組んだ作文の成果は、担任の先生の「10分で400字も作文を書けるのだから...」という不安をよそ、多くの塾生が、見事な作文を書きあげてくれました。また、初日は10分で書き上げられなかった塾生も、家庭で取り組み、素晴らしい出来の文章を生み出しました。

今月は、優秀作品の候補が四面分にもほり、新春特大号の二面に絞り込むため、嬉しい悲鳴をあげながらの編集作業となりました。作文の出来の良さだけではなく、日記にもよい影響を与えたようです。「こんなにたくさん字数を自分で簡単に書ける」ということに気づいた皆さんの日記は、字数、内容ともに格段の進歩を遂げました！今回誌面の都合で紹介できなかったみなさんも、着実に力をつけていました。今月も引き続き、作文に取り組みましょう。

「書き出しの一文」を工夫する

- ①「セリフ」や「音」で始める
「おかえりなさい。」「いつも聞かされた母の音がした。」「バリン。」大事にしていたガラスのコップが割れた。
- ②動作を表す言葉から始める
走った。何も考えないよう、ひたすら走った。
- ③思い出から始める
低学年の頃、茶色いランドセルのせいで、よくからかわれた。
- ④五感を使った文で始める
じわじわだったランドセルは、今では傷だらけでガサガサだ。
- ⑤時刻から始める
午前五時半、昨日セリフしておいた目覚まし音で目覚めた。
- ⑥お話風に始める
大書が降った翌朝のことでした。
- ⑦感動から始める
やっと！思わず心の中で叫んだ。
- ⑧意見から始める
「飯は、家族でさっさと食べるほうが良いと思います。」



この二週間は、**週始めの授業内の10分を使って、担任の先生(国語担当)と低学年は日記、高学年は作文に取り組みます。**最後まで書き上げられなくても、その日は終了です。最後まで書きなかつた人は、翌日も家で10分間、同じ題材に初めから取り組んで下さい。10分間で書き上げられるまで、毎日くり返し挑戦して下さい。

四谷大塚全国統一小学生テスト 梨香YK君(小3)堂々全国5位入賞!!

去る11月3日(祝)に行われた四谷大塚の「全国統一小学生テスト」で、**キッズクラブ**所属の小学三年生、YK君が、全国で5位という大変優秀な成績を収めました！これから難関私立中学校を受験しようとする、すでに受験勉強に励んでいる小学生も数多く受験した中での快挙！K君、おめでとう！K君の日頃の努力の賜ですね。高校受験までのさらなる成長が楽しみです。K君自身の喜びと興奮を日記でお楽しみください。好奇心旺盛で努力家のK君、漢字の使い方は、小3とは思えないレベルの高さ。文章の完成度の高さにも注目です。



『全国統一小学生テスト』

この前、僕は四谷大塚の、「全国統一小学生テスト」を受けました。きっかけは、無料だったからと、友達と一緒に受けようとして誘ってくれたからです。上位入賞者は、賞品がでるらしいです。お母さんは、「そこまで成績は良くないでしょう。無理、無理。上にはさらに上があるよ。」と言っていました。

ところが!!なんと五十位以内に運良くはいってしまいました。そう、決勝大会進出です。お父さんもビックリ！おごつかいを、五百円もくれました。

十一月二十一日の、決勝大会当日。周りには、知っている人は一人もいません。変な緊張感の中で、テストが開始しました。問題は、決勝大会だけあって、とても難しく、半分くらいしか解くことが出来ませんでした。

そして、昨日ついに結果がでました。点数は、三百五十点中、二百二十二点。順位は、なんと、五十人中五百位!!!とても、とてもビックリしました。それと同じくらい、嬉しかったです。僕は、(一生けん命梨香ゼミに通って良かったな。)と思いました。もちろん、賞品ももらえます。なんと、賞品は「iPad」でした。そのおかげで、またお父さんからおごつかいをもらいました。

今回、無料で受けたテストが自分のプラスになって本当に良かったです。来年の四年生テストも挑戦したいと思っています。(小三・YK君)

優秀作品紹介

『ピーナッツパーティー』

十二月二日に、学校でピーナッツパーティーをしました。そのピーナッツは学校のクラス全員で、畑でそだてた物です。はんにはわかれて、からをとったピーナッツをホットプレートにおいて、しゃもじとさいばしでころがしていったけど、



こげてしまいました。それから、計りで同じ重さに計ってわけました。ししょくをしてから、じぶんのところから、ピーナッツを五こ、ふくろにいれて、五年生にあげました。ピーナッツの味は、さいしょ苦くて、ずっとかんでいると、すごくおいしかったです。

おみやげでもってかえると、お母さんに食べてもらいました。お母さんは、お店に売っているのより、香ばしくておいしいといっていました。お母さんによるこんでもらえてうれしかったです。(小三・UMさん)

ピーナッツの香ばしい良い香りがしてきそうですね。自分たちで育てたピーナッツであることの説明が簡潔にまとめられ、その美味しさを自分の感想だけでなく、お母さんのセリフで表現したことで説得力が増しました。

『マラソン大会』
十二月一日に、「最後まで走ろう会」がありました。いよいよ、スタートです。

と音がなり、みんないっせいに走り出しました。私は真ん中の方にいました。校庭を一周半して、学校の外に出ました。出て少しすると、急な上り坂です。上り坂を走っていくと、お母さん達がたくさん立っていて、「がんばれー」「ファイトー！」など、いろんな応援の音が聞こえてきます。その先もお母さんたちがたくさん立っています。

池の周りを一周し、二週目に入ると、とても苦しくなりました。前にたくさんの方が走っていて、ぬかしたいけど、ぬかす元気がありません。私はそのままのペースで走りました。すると、ゴールが近づいてきました。私は、(もうすぐゴールだ！)と思いました。

ゴールしました。その時に一枚のカードをもらいました。そのカードには順位が書いてあり、少し残念な気持ちになりました。自分が思っていたよりも順位が低かったからです。私は、走り終わったあと、(来年は、もっと上の順位をめざそう！)と思いました。(小五・SHさん)

ピストルの音、お母さん達の声援、マラソン大会の様子を生き生きと表現していますね。季節柄、マラソン大会を題材に選ぶ人は多かったものの、Hちゃんのように、途中の苦しさを上手に表現した文章はありませんでした。お見事！



梨香台ゼミナール

『職場体験』

今日、職場体験に行きました。行ったのは「高安園」という梨園です。その梨園は、千葉エゴ農産物に認定されています。千葉エゴ農産物とは、科学合成農薬と科学肥料を通常の半分以下に減らして作られ、環境にやさしい、安心な千葉生まれの農産物です。

その高安園でやった作業は、「はっぱさらい」と「草取り」です。一見めんどくさそうな作業だけど、この作業をちゃんとやらないと、次に出てくる梨がダメになってしまうという、大変重要な作業です。その作業を、一本一本ていねいにやりました。そして、予定していた数の二倍をやりました。実は、この梨園の仕事が、今回の体験で一番ハードな仕事でした。

そして、やる作業をすべて終わると、おかしバラダイスがまわっていました。がんばったので、すごくおいしかったです。(小六・THさん)

千葉エゴ農産物や職場体験の作業の内容をとてもわかりやすく、上手にまとめていますね。大人っぽい明快な事実説明が二段落続いたのは対照的に、最終段落ではHちゃんらしい「おかしバラダイス」というユニークな言葉が登場し、とても魅力的な文章になっています。

課題作文部門

『今、一番気になっていること』

私の家には、アボカドとラズベリーの木があります。アボカドは、スーパーで買って食べた種を庭にうめてみたら、いつの間にか芽が出てきて、今では背が私より高くなっています。

ラズベリーは、お父さんが私のためにホームセンターで買ってきてくれました。最初は、たくさん実がなっていたのですが、私が全部食べてしまいました。そのあとは、全然実がならずがっかりしていました。でも、久しぶりに見てみると、実がたくさんついていました。思わず手をのばし、口の中にほおばりました。甘ずっぱくてとてもおいしかったです。あつという間に全部食べてしまいました。また、しばらくは実がならないと思うので、とても待ち遠しいです。

次は、アボカドの実がついてくれるとうれしいです。アボカドはサラダにして食べたかったです。(小五・MSさん)

実のなる木を植えて、その成長と実りを楽しみにするのは、素敵ですね。抽象的な課題でしたが、身近な「気になる事」を上手に取り上げましたね。Sちゃんが、ラズベリーを食べる姿が、目に浮かびます。題材選びの上手さは、是非参考に！

『友達』

ぼくには、同じクラスの吉田君という人がいます。五年生の時に転校してきて、野球をしていたと聞いて友達になりました。

その吉田君とは、いつもクラスを明るくして、いつもともに行動している人です。僕は、吉田君のことを大事な野球友達だと思います。なぜかという、野球で、ぼくはピッチャーで、吉田君はファーストで、ぼくがミスをしたらいつもはげましてくれます。吉田君に「ドンマイ、ドンマイ、次行こう！」

と言われると、ぼくはホッとして思いつき投げたストライクが入るようになります。ぼくは、吉田君にとっても感謝しています。もし、吉田君が転校してこなかったら、ぼくは野球をやめたのかもかもしれません。

友達とは、いつも支え合い、一緒に努力したり、時には泣いたり、時にはけんかしたりする、それが、本当の友達だとぼくは思います。(小六・KR君)

大事な友達であることを裏付けるエピソードを上手に挿入しましたね。楽しい、優しい、ということを友達の特徴としてあげるだけにとどまらず、「真の友達とは何か」という、自分なりの意見でしっかりと文章を締めくくっているところもお見事です！

『友達』

私の友達は、秋元さきさんです。秋元さんとは一年生の時から同じクラスです。友達になったきっかけは、さきさんが、「友達になろうよ！」

と言ってくれたからです。秋元さんは、授業の時いつも発表をしていてすごいと思います。いつも、はきはきしています。私とはちがって、あまり元気がない時なんてありません。秋元さんは、友達が困っているときや泣いているときに、いつもなぐさめています。その秋元さんは、あまり泣かないのです。秋元さんが泣いていると、なぜか教室の中が真っ暗です。私は、その時にわかったことがあります。秋元さんは、誰よりも元気で、人にもやさしくしているから、みんなに好かれてるんだということ。私も、秋元さんが泣いていると悲しくなります。

でも、なるべく秋元さんが、泣いたりしないように、手助けをして、いつも笑顔でいてもらえたらいいと思います。(小六・HNさん)

『友達』

秋元さんの性格を普段の彼女の行動で上手に表現しましたね。また、「秋元さんが泣いていると、私も悲しい」と自分のことのように痛みを受け止めているところに、Nちゃんと秋元さんの深い友情を感じます。心温まる文章でした。

ぼくは今、六年一組です。その中で四人、とてもいい友達がいいます。みんなからは、よく「ジミーズ」とよばれています。名前は、みやぎ、たつき、りくと、りょうやと、ぼくの五人組です。

どうして、「ジミーズ」かというと、みんな地味だからです。みやぎは、頭はいいけど、昆虫などが好きで、たつきは、うんどうがともよくできて、みんなのお手本などによく出るけど、それ以外は、まったく目立ちません。りくとは同じ部活だけど、とても心が弱く、なにげないことですぐにぶりぶりおこるけど、勉強などでは、まったく手をあげないで静かにしています。りょうやは、親友だと思っけど、みんなから「おやじ」と言われていて、しょうぎが好きで、近くにいっても、りょうやはどこ？と言われるほどです。

こんな感じの五人組だけど、話していたりしても、笑うところや、話題が似ているから、とてもいい友達だと思っます。中学生になっても、仲良くしたいです。(小六・SD君)

グループ名が「ジミーズ」、その理由をユニークに説明しながら、個性豊かで味のある友達を上手に紹介してくれましたね。久しぶりに添削しながら、声を上げて笑ってしまいました。D君の言うとおり、笑うツボや、話題が合うことは、友達の間で大切な要素です。素敵な友達、いつまでも、大切にね！

伊藤先生のおすすめ本

- ★初級者★
おやすみなさいまたあしたのら書店
神沢利子 作・西巻芽子 17才
子供達に身近な草花や小動物を子供の視点でとらえた楽しい詩の絵本。
- ★★中級者★★
長くつしたのピッピー
岩波少年文庫
双対トド・リッド・グレン 著
大家勇三 翻訳
世界一強い女の子ピッピーのどきどきりゆうかい物語。
- ★★★★上級者★★★★
ディダコイ 評論社
ルマー・J・ゲン 著
ディダコイはジプシーの混血心と語る。味。天涯孤獨にわたるジプシーの血を引くキジと町の人々の物語。